

そうじの力だより

VOL.207



支援事例紹介

楽しみながら、創意工夫する！

～自分たちの手で、職場をもっと働きやすく、快適に～

ITサーバーの第三者保守で、業界トップシェアを誇る、データライブ(株)の環境整備のお手伝いをしています。

企業のITサーバーは、通常、五年でメーカーの保守が切れます。その後は、機器を更新してほしいというのが、メーカーの思惑ですが、それを続けていると、企業には大きな負担がかかるため、第三者による保守が注目を集めているのです。

この事業のカギを握るのは、保守部品の品揃えです。

イザお客様企業において、サーバーにトラブルが生じた場合、すぐに駆けつけて、障害の部位を確定し、当該部品を交換する、というのが同社の仕事です。

だから、その時に必要なネットワーク機器や部材などが、常に過不足なくストックしてあることが、事業の生命線です。

それを担うのが、埼玉県久喜市にある、関東ストックセンター(KSSC)です。広大な倉庫内に、〇〇点の機器類が、整然と保管されています。

このKSSCにおいて、山田和人社長の肝入りで、環境整備が重点的に行われています。

現在、四人のメンバー+社長で、環境整備委員会が編成され、毎月定例の勉強会が開催されています。

そのメンバーをリーダーとして、各グループごとに、月に一〜二回の活動

日が設けられ、全員参加によって、様々な改善活動が展開されています。

まずは、整理、つまり不要なものを捨てるのが肝要です。

同社では、業種柄、いろいろなIT機器類が溜まっています。イザという時に役立つのではないかと、今や山積みになっておいたものが、今や山積みになりました。それを、思い切って処分していきます。

中には、数人、捨てるのが苦手な社員がいて、彼らは、自力で整理するのは無理と判断し、委員会に助けを求めてきました。それを幸い



整理した結果、廃棄するケーブル類

に、委員メンバーや周囲の人たちがサポートして、山積みになっていた機器類を処分することができました。

同社が素晴らしいのは、こうした整理・整頓の活動において、自分たちでアイデアを出しながら、楽しみながら工夫していることです。

たとえば、ケーブル類の整頓は、かさばるので、頭の痛い課題です。そこで、ある社員の発案により、百円ショップ

で売っている書類用のクリアケースを流用して、うまく収めることができました。



クリアケースを流用したケーブル類の整頓

とても見やすく、取り出しやすくなりなり、作業がしやすくなりました。

実はこの写真をツイッターに投稿したのですが、一万三千人が「いいね」を押してくれる、バズった投稿となりました。

同様に、IT機器の細かい部材を収納するのに、釣りのルアーケースを流用して、うまく整頓できたものもあります。



ルアーケースを流用した細かい部品の整頓

この春からは、新たに、周辺地域の清掃にも取り組んでいます。

月に一回、交替でゴミ拾いを行っています。工業団地内にあるので、敷地を共有する他社との合同の活動です。

地域がキレイになると、気持ちもよくなるものです。他社とも、よいコミュニケーションが取れる場となつていきます。



他社と合同の地域ゴミ拾い

一方、地震対策にも積極的に取り組んでいます。

万が一の大地震の際にも、社員が安全を守るため、そして、大事な保守部品を守るため、ラックからパレットが飛び出さないようにするためのツメを、すべてのラックに備え付けました。



耐震用のツメ(パレットストッパー)

山田社長は、急成長する会社の土台を支えるのは、環境整備・整理・整頓・清掃だという信念の下、自ら旗を振って取り組んでいます。

同社の勢いは、まだまだ衰える気配はありません。(小早)

オンラインでの研修や講演を承ります。目的や対象者に応じて、時間や内容をカスタマイズできます。まずは[ホームページ](#)をご覧ください。

今月の読書から



我田引水ですが、私自身の著書を紹介させていただきます。私にとっては、2冊目の著書になります。

今回は、整理つまり「不要なものを捨てる」ことに焦点を絞

り、「何を」「どのように」「なぜ」捨てるのかを、具体的事例やイラスト、図表などをふんだんに用いて、詳しく解説しました。

以下、「はじめに」からの引用です。

筆者は企業コンサルタントのはしくれですから、経営者の方に会すと、「小早さん、業績が良くなる方法を教えてください」と尋ねられることがよくあります。

そのときに、決まり文句のように私が答えるのが、「社長、まず捨ててください」というセリフ。

当然ながら、相手の反応は「は？」というものになります。

業績を良くするためには、ユニークな商品を開発するとか、強力な販売手法を編み出すとか、消費者を引きつける広告宣伝を打つ、といったことが思い浮かぶことでしょう。

しかし私は、そういうことをやる前に、「まず捨てましょう」と言います。

そして、捨てなければ決して良くはならない、とも確信しています。

それはなぜか。

うまくいかないのは、そこに何か「悪さをしているもの」があるからです。言うなれば、病気における患部＝ガンです。

そのガンを取り除くことなく、いくら栄養剤を摂取しても、体は良くなりません。いくらストレッチや筋トレをしても、健康体には戻りません。

それと同じで、企業組織において、不要なものというガンを放置したまま、業績を良くすることはできないのです。

だから、まず「捨てる」ことが必須なのです。

ところが、多くの方が、「捨てる」のが苦手です。そこには、執着やしらがみがあるので、それを手放すことが難しいのです。

多くの企業で、捨てることが不十分ゆえに、つまづきます。

いっぽう、捨てることを徹底できた企業は、その後の改革がうまくいきます。

この非常に大切で、かつ難しい「捨てる」ということについて、さまざまな角度から検証し、読者の皆さんが実際に「捨てる」ことができるように解説したのが本書です。（以上、引用終わり）

一般家庭や個人を対象にした「捨てる」ノウハウ本は、たくさんあふれています。本書が、企業経営における唯一無二の「捨てる」ノウハウ本だと自負しております。

全国の一般書店およびAmazonなどのネット書店で絶賛販売中です。（小早）

編集後記

五十路の手習い

支援先の社長に勧められて、囲碁をはじめました。

まさか、50代半ばで、囲碁を一からはじめることになるとは思っていませんでした。

囲碁は、ルールは至ってシンプルなのですが、果てしなく奥の深いゲームです。

現在、AI相手に初級者クラス設定で腕を磨いていますが、なかなか勝てません。

死ぬまでに初段を目指して、コツコツやります。（小早）



飛鳥のつばやき

川釣りLv.1

夏休み帰省し、近くの川に夕方散歩に行くと、小学生が小魚を大量に釣っていました。

1回釣らせてもらった長男。すぐに釣れたのが楽しかったようで、「ぼくもあしたやりたい」。

釣り知識ゼロの中、急いで100均をはしごして道具を揃え、翌朝5:00に叩き起こし、いざ川へ！

ところが、昨日教えてもらった同じエサを使っても、まったく釣れず…。(長男はすぐに飽きてた)

うーむ悔しい！来夏リベンジするぞ！ (大槻)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨く、
日本で唯一の研修会社

弊社は「そうじ＝環境整備」を通じ

た「企業風土改革」を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場検証を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を原則としますが、状況とご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。（全国対応）